

鶴岡市 地域まちづくり未来事業計画の推進

事業名	事業費					令和5年度 事業内容
	H31・R1	R2	R3	R4	R5	
地域振興懇談会運営事業	135万7千円	135万円	91万3千円	135万7千円	177万7千円	・地域振興懇談会を開催し、各地域の課題解決策や地域の活性化策について協議を進める。
地域まちづくり未来事業（鶴岡）	3,022万6千円	3,180万7千円	3,016万3千円	3,016万1千円	2,016万1千円	鶴岡地域の広域コミュニティ組織が、未来に向けて取り組むまちづくり事業を支援し、住みよい、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進する。
地域まちづくり未来事業（藤島）	6,098万7千円	1,550万6千円	2,250万3千円	2,301万1千円	2,624万2千円	1. 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現 6,744千円 2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進 14,382千円 3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築 5,086千円
地域まちづくり未来事業（羽黒）	5,139万9千円	1,787万9千円	4,415万3千円	1,667万8千円	1,380万8千円	1. 人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進 13,508千円 2. 活力あふれる地域づくりを担う地域コミュニティの推進 300千円
地域まちづくり未来事業（櫛引）	2,191万4千円	1,291万9千円	1,512万8千円	1,812万5千円	1,292万4千円	1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり 3,679千円 2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進 174千円 3. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進 3,268千円 4. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進 5,803千円
地域まちづくり未来事業（朝日）	5,689万9千円	2,123万5千円	2,553万2千円	2,190万6千円	1,452万4千円	1. 中山間地における定住環境の支援 9,288千円 2. 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興 2,073千円 3. 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興 3,163千円
地域まちづくり未来事業（温海）	4,095万1千円	3,005万2千円	2,129万8千円	3,153万7千円	2,804万5千円	1. 日沿道延伸を生かした鼠ヶ関周辺地域の活性化 658千円 2. 自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大 18,363千円 3. 農林水産資源のブランド化 3,017千円 4. 次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化 300千円 5. 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 5,707千円
合計	2億6,373万3千円	1億3,074万8千円	1億5,969万円	1億4,232万7千円	1億1,748万1千円	

村の四季

35

鈴木重雄（八色木）

村の伝統を継いで①
藤島地域は昔から、獅子郷として各村で踊り（舞とも言う）が盛んであった。

八色木町内会は昭和58年、獅子踊り保存会が発足し、踊りの伝承と後継者の育成に尽力されている。

平成19年11月、第57回全国民俗芸能大会に出演し、全国に紹介された。そして平成22年ふじしま夏まつりにも上演し、無形文化遺産として好評であった。

田植えも終わり、うつとうしい日が続く頃から獅子踊りの稽古が始まる。薬師瑠璃光如来堂の境内の松の木に裸電球をつるし、電球の煌々下で稽古していた。

近年は公会堂の広場に変わった。日中の暑さもやわらぎ、風に乗ってくる太鼓の音が、お盆の近いことを知らせてくれる。

八色木獅子の由来

記録によると最初に踊ったのが明治4年（1874）とある（薬師堂に宮入りの絵馬）。しかし飯鉢文書（現当主飯鉢藤夫氏）に、これより80年ほど前の寛政2年（1791）7月獅子踊りと記録されている。これが八色木獅子か、どこかの獅子が踊ったのかは定かでない。

八色木獅子の創始者は、唄は海藤四郎右衛門（現当主和子氏）、振

り付けは齋藤仁助（現当主仁作氏）と言われている。

口伝によると、仁助さんが須走獅子を参考に創作したという。この両氏が長年にわたり創作に没頭し、今日の八色木獅子が踊り継がれていると思うと感無量である。

若者たちは一日の仕事を終え、夕食が済むと薬師堂に集まり、踊りを習う者、唄あげに励む者で活気が出ていた。師匠は前回の中獅子を務めた人がアドバイスをしている。踊り手は両手を腰に当て、「ソーラ、ダンチツキ、ダダンコダン」と、左右に足を滑らせて舞うように踊る。

春以来稽古を積んで、7月の終わり頃には獅子踊り審査会が開かれ、5、6人の審査員によって獅子持ち、大鼓持ち、3番獅子と格付される。この人たちの最高点を得た人が中獅子、牡獅子、友獅子、白鷺という順序に決定され、やがてこの人たちが次世代の師匠格となる。

若者たちは、夜が明ければ朝露を踏んで馬草を刈りに行く。ねじり鉢巻をし、草刈鎌を太刀に見立てて振りをイメージしながら草刈をする熱の入れようであった。

なお、「庄内地方の獅子踊り雑感」（戸川安章著）、「八色木獅子踊りについて」（鈴木昭重著）がある。

地域まちづくり未来事業、新規は

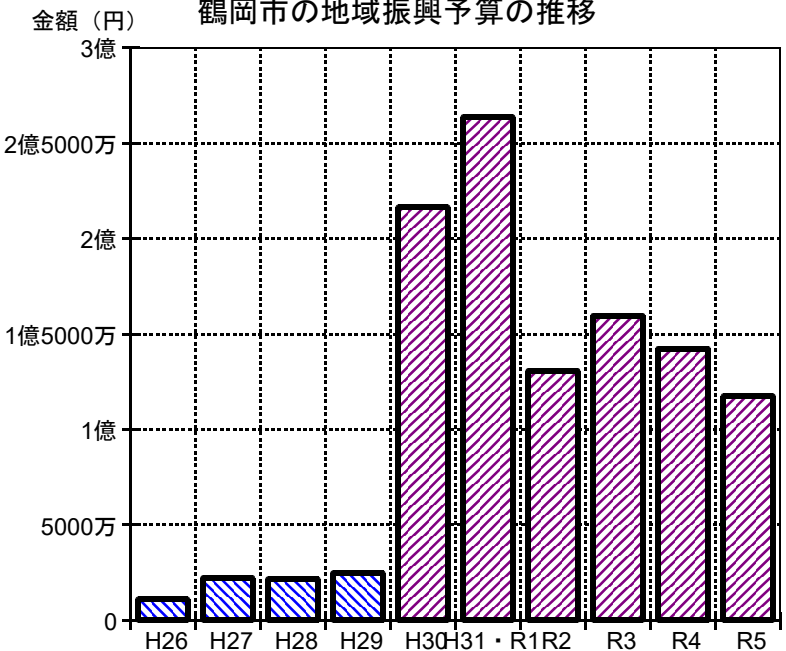
鶴岡市の地域振興予算は、皆川市政になって大きく増えました。

地域まちづくり未来事業は、それぞれの地域の特性や資源を活かした魅力ある地域づくりと交流促進、地域産業の振興などを進めます。

「ぼんぼ」の試行

かたくり温泉「ぼんぼ」については、当施設

鶴岡市の地域振興予算の推移



榎本市政 ← → 皆川市政

設で行われている介護予防や健康増進活動の維持を含めて、新たな運営事業者の募集及び試行を進めるとしています。

新規事業としては、**藤島地域**の「藤島文厚エリア検討事業」41万1千円、**羽黒地域**の「羽黒山スギ並木保全計画策定事業」93万円、「月山卯年御縁年誘客対策事業」152万7千円、

「朝日地域の「朝日地域共創プロジェクト支援事業」26万円、「朝日地域地域内交通調査研究事業」25万円、「かたくり温泉利活用トラアル事業」189万円、「朝日地域観光あいのりタクシー運行事業」140万円、「朝日地域国有林活用事業」154万5千円、**温海地域**の「温海地域水産物販売実証実験事業」65万8千円、「日本国登山イベント実施事業」55万5千円、

「朝日地域の「朝日地域共創プロジェクト支援事業」26万円、「朝日地域地域内交通調査研究事業」25万円、「かたくり温泉利活用トラアル事業」189万円、「朝日地域観光あいのりタクシー運行事業」140万円、「朝日地域国有林活用事業」154万5千円、**温海地域**の「温海地域水産物販売実証実験事業」65万8千円、「日本国登山イベント実施事業」55万5千円、

「温海地域保育留学による関係人口創出事業」318万9千円、「温海地域集落ビジョン策定支援事業」30万円などがあります。

地域おこし協力隊の活用やアドバイザー職員の派遣などと、地域住民との協働による取り組みを推進します。

の筆者が、教育労働組合結成のために結びついていた。

両者の会合は、山高生の指導者一名を加えて俊太郎宅で行われた。

8月の第1回準備に集まった同志は、高橋幸三・武田竹男・高橋卯門（以下原稿紛失）。以後準備会を重ね、1931年11月7日、ロシア11月革命記念日に結成した。

結成大会は欠席2名で7名の参加であった。

名称は後に訂正されたもので、全協日本一般使用人教育労働部山形県支部（教労山形）である。

教育労働者諸君！で始まる宣言。1、ニュース発行万歳！を冒頭に、11の大会スローガン。

役員は常任執行委員長・武田竹男、執行委員・柴田秀雄・太田五郎（庄内）・高橋幸蔵・村山俊太郎で、他にもいたようである。

『著作集』のこの部分は、「以下原稿紛失」

となっている。

（筆者は1953年入党したが、ソ連共産党を世界革命運動のリーダーとする風潮があり、ロシア革命記念日を党あげて祝福した。

1950年ソ連共産党が日本共産党内に党派をつくるなど干渉が始まった。

日本共産党は大小、政権党かを問わず、平等の原則を主張、1950～60年代後半にかけて論争し、非を認めさせた。

ソ連共産党リーダー論は、戦前はずっと強かった。）



原発依存、反対

外国では、「大洪水よ我亡き後に来たれ」と言うんだとか。日本では「後は野となれ山となれ」と言うのが適当かな。今の物でも手を焼いているながら、何をやってんだと言いたい。

▲岸田内閣の原発政策の事だ。防衛費の増額のように、国民に説明もなく、何を思い付いたのか、原発の使用期間の延長と新增設まで閣議決定したようだ。

▲福島島の現状はと言えば、もうすぐ12年目に入ろうとしているのに帰還は出来てもごく一部だ。ぼっこれた原発片づけんな、何が手付いたがヤ。一生懸命やっつてんなだろうが、デブリの現状すらつかめていないだろ。つまり、いったん事故があれば手に負えねーって事。

▲そのことを分かっているながら、これまで40年だった耐用年数を60年に延ばし、場合によってはそれ以上も良いとしたというんだ。アブネーアブネーだ。この国・アベの時代のように、首相の思い付きで何でもひっくり返えすんだナーと思いませんか。

▲世界では、福島の状態を見て、原発から再生可能エネルギーに変えたという国があるというのに、当の日本は新增設もあるんだト。まだ終わらない除染とその土。炉や建物を取り壊しても持つていく所が無いどころか、毎日使っている物の処分も困っているがらだ。

▲こんな現実には首相や専門家は何を考えているのか。一人だけ使用期間の延長は科学的知見ではないからと反対したというが（石川）

ひと

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

俊太郎論文 県教員労働組合の過去と現在③

しかし、このような自主的な教員組織が熊谷市大会での校長公選問題討論を理由に、免職強要・不当解任などの弾圧を加えられ。

また労働者・農民の

前衛が1928年夏頃から（旧制）高等学校社会科学研究会に結びつき、社会科学を身につけ労働運動への眼をひらいた。

（略）1931早春、山高学生組織を仲だちにまず柏倉門伝の高橋幸三と小白川（下宿先）